

早稲田大学 国際教養学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	昨年の問題が簡単だったためやや難化したが、判別に苦しむ正誤問題でも消去法などで正解できるものがいくつもあった。英文の史料問題が出されるのが定番だが、国際教養学部を受験するほどの英語力があれば、特別な対策は必要ない。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代・中世の日朝関係	問6イを正文と判別するのは難しいが、消去法で解ける。問7オの年号は難しいが、消去法で解ける。問10は1994年の早稲田大教育学部でも出題されていた内容。	やや易
II	近世の日朝関係	早稲田定番の問題が目立つ。問1はXの正誤判別が難しい。残りはどれも正解できる問題。例えば、問6を難しいと言っているようでは、早稲田の合格はおぼつかない。	やや易
III	幕末～明治維新期の政治・外交	史料(1)の「官軍」を見て戊辰戦争と思ったのなら、史料の読解力が弱い。問4の正誤文も大きなヒントであった。巧妙なヒントが隠されていることに気付いただろうか。問8イ・エの正誤判別に苦しんだであろう。問9ウを正しいと判別した人は過去問の分析が十分でない。詳細は、「早大日本史の検証」でお知らせする。問10エとオの正誤判別には苦しむ。	やや難
IV	戦後改革	問2アとウで悩まされる。幣原内閣総辞職後、第1次吉田内閣が成立するまでには、約1ヵ月間の政治的空白があった。問5オはよく考えれば常識で誤文とわかるし、消去法でも解ける。問10ウとエで悩まされる。	標準

【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。